

## ゴケグモ属 *Latrodectus* に関する情報

原産地： 種によって様々だが、多くは熱帯～亜熱帯地方原産。

定着実績： セアカゴケグモ (*Latrodectus hasselti*) は大阪府、三重県、兵庫県、和歌山県、奈良県等、37 都府県で確認されている。ハイイロゴケグモ (*Latrodectus geometricus*) は東京都、神奈川県、大阪府、沖縄県など 13 都府県で確認されている。クロゴケグモ (*Latrodectus mactans*) は滋賀県、山口県で発見事例がある。ツヤクロゴケグモ (*Latrodectus hesperus*) は群馬県で発見例があるが、詳細不明。(文献 )

### 評価の理由

ゴケグモ属は -ラトロトキシンという神経毒を有し、刺咬により運動神経や自律神経が障害され、疼痛、激しい筋肉痛や筋痙攣、嘔吐、血圧上昇、呼吸困難などの症状を引き起こす。重症化した場合に血清投与が遅れると死亡する可能性もあり、人の生命・身体に被害を及ぼすおそれがある。

### 被害の実態・被害のおそれ

#### (1) 人の生命・身体に係る被害

- ・ -ラトロトキシンを有するゴケグモ属による刺咬により、局所の疼痛、激しい筋肉痛や筋痙攣、筋硬直、嘔吐、血圧上昇、呼吸困難などの症状を引き起こす。(文献 )
- ・ 通常は数時間から数日で症状は軽減するが、時に脱力、頭痛、筋肉痛、不眠などの全身症状が数週間継続することがある。重症例では、進行性の筋肉麻痺が生じる。(文献 )
- ・ ゴケグモ属による日本初の被害例：平成 9 年 7 月に関西国際空港(貨物区域)において 26 才男性が咬症被害を受けた。患者は抗毒素血清が配備されている大阪府立病院(現・大阪府立急性期総合医療センター)にて診察を受けた。(文献 )

### 被害をもたらす要因

#### (1) 生物学的要因

- ・ コンクリート建造物や器物の窪みや穴、裏側、隙間、管渠などに営巣し、人間の生活環境周辺に生息が可能である。
- ・ 一度に多くの卵を産み(1 卵塊あたり数十～数百卵) 増殖率が高い。
- ・ カナダにも分布し、低温地でも生存可能と考えられる。

#### (2) 社会的要因

- ・ 貨物やコンテナ、建築資材、自動車等に営巣し、また農作物等に付着し、人為的に運ばれることにより分布が拡大する可能性がある。(文献 )

例：ニュージーランドでは、ツヤクロゴケグモがカリフォルニアからの農作物（輸入ぶどう）に付着して複数回にわたり確認されている（文献 ）

- ・屋外に置かれた傘や衣服、玩具等に付着して屋内に持ち込まれる可能性がある。

特徴ならびに近縁種、類似種などについて

#### 分類

- ・ゴケグモ属 *Latrodectus* は、クモ目ヒメグモ科に分類され 31 種に整理されている。（文献 ）
- ・既に特定外来生物に指定されているセアカゴケグモ、ハイイロゴケグモ、クロゴケグモ、ジウサンボシゴケグモはいずれもゴケグモ属に属する。
- ・八重山諸島に生息するアカオビゴケグモは同じゴケグモ属に属する（他のゴケグモ属同様に毒を持つ）。（文献 ）
- ・ゴケグモ属の分類には様々な見解があり、例としてツヤクロゴケグモはゴケグモ属の中ではクロゴケグモに非常に近縁であり、本種をクロゴケグモの亜種とする場合や、あるいは同種として亜種としても扱わない見解もある。（文献 ）

#### 分布

- ・国内で記録のある外来ゴケグモ属 4 種について、セアカゴケグモは、熱帯～温帯に生息し、オーストラリア、ニュージーランド、南太平洋諸国等に分布する。ハイイロゴケグモは、中南米、アフリカの熱帯地域が分布の中心だがインド、フィリピン、ハワイ諸島等、世界中の亜熱帯、熱帯地域に広く分布する。クロゴケグモは、北米原産で、北米中部～南米に分布し、北米大陸東部ではオレゴンとニューヨークの緯度まで分布する。ツヤクロゴケグモ北米（メキシコ、アメリカ、カナダ）西部に分布する。イスラエルにも分布するが、人為による移入と考えられている。（文献 ）

#### 形態

- ・ゴケグモ属の形態的特徴として、腹部腹面の斑紋が赤色ないし薄色の四角形～砂時計形～双三角形であること、糸器の間突起が大きいことが挙げられる。
- ・雌の体長は、7～10 mm 程度（成熟時）。体色は褐色～黒色で、腹部背面の斑紋の有無には種や個体により変異がある。
- ・雄の体長は、2.5～6 mm 程度（成熟時）。腹部背面は種や個体により斑紋があるが、変異がある。腹部が細く、頭部の触肢が丸く膨らむことで雌と区別できる。雄は成体になっても小型のため、咬傷被害の可能性は低いと考えられる。

#### 生態

- ・ゴケグモ属は、世界中の多くの多様な生息地で発見され、都市環境にも適応している。自然界では、乾燥地、砂漠や砂漠の条件に近い環境を好む。（文献 ）

- ・人間の生活環境周辺にも適応し、コンクリート建造物や器物の窪みや穴、裏側、隙間、管渠などに営巣し、生息可能である。
- ・海外において、餌の 85% がコウチュウ目とハチ目の昆虫であったとの研究がある。この他、等脚類やクモ類、ハサミムシ類、直翅類、双翅類を捕食する。(文献 )

#### その他の関連情報

- ・ツヤクロゴケグモは、海外において、秋から冬にかけて 2 ~ 8 個体が 1 つの網に集まっている例が報告されている。(文献 )
- ・「毒グモ」という言葉の印象の強さや、人体に直接影響を与えることなどから、社会的関心が高い。
- ・ゴケグモ属は、widow spider と一般に呼ばれる。(文献 )

例：セアカゴケグモは、red-back widow spider、ハイイロゴケグモは、brown widow spider とそれぞれ呼ばれる。クロゴケグモは black widow spider と呼ばれ、北米大陸の東部に分布しているのに対して、ツヤクロゴケグモは西部に分布し、英名は western black widow spider と呼ばれる。

#### 主な参考文献

大阪府健康医療部環境衛生課 セアカゴケグモの詳細について(平成 11 年 2 月)。大阪府ウェブサイト セアカゴケグモについて, <http://www.pref.osaka.lg.jp/> (平成 27 年 4 月 22 日アクセス)

大利昌久・新海栄一・池田博明(1996) 日本へのゴケグモ類の侵入. 衛生動物, 47(2): 111-119.

小野展嗣(編著)(2009) 日本産クモ類. 東海大学出版会, 738pp.

公益財団法人日本中毒情報センター(2009) 保健師・薬剤師・看護婦向け中毒情報【ゴケグモ類】Ver.1.00. 保健師・薬剤師・看護師向け中毒情報データベース, <http://www.j-poison-ic.or.jp/homepage.nsf> (平成 27 年 4 月 22 日アクセス)

昆虫情報処理研究会 ゴケグモ情報センター, <http://www.insbase.ac/xoops2/>. (平成 27 年 4 月 22 日アクセス)

清水裕行・金沢至・西川喜朗(2014) 日本のゴケグモ類 5 種の分布状況とセアカゴケグモの分散方法に関する考察. 大阪市立自然史博物館研究報告, 68: 41-51.

夏原由博(1996) セアカゴケグモの生態と刺咬症状への対応. 生活衛生, 40:13-21.

D. Zhang, W. Cook and N. Horner (2004) ITS2 rDNA variation of two black widow species, *Latrodectus mactans* and *Latrodectus hesperus* (Araneae, Theridiidae). *Journal of Arachnology*, 33: 349-352.

J. Garb, A. González and R. Gillespie (2004) The black widow spider genus *Latrodectus* (Araneae: Theridiidae) phylogeny, biogeography, and invasion history. *Molecular Phylogenetics and Evolution*, 31: 1127-1142.

- Sylvia M. Lucas and Jurg Meier (1995). Biology and distribution of spiders of medical importance *In Handbook of Clinical Toxicology of Animal Venoms and Poisons*. CRC Press, 239-258.
- J. White, J. Carsodo and H. Fan (1995) Clinical toxicology of spider. *In Handbook of Clinical Toxicology of Animal Venoms and Poisons*. CRC Press, 259-330.
- M. Salmon, S. Vibert and R. Bennett (2010) Habitat use by western black widow spiders (*Latrodectus hesperus*) in coastal British Columbia: evidence of facultative group living. *Canadian Journal of Zoology*, 88: 334-346.
- M. Salmon (2011) The natural diet of a polyphagous predator, *Latrodectus hesperus*(Araneae: Theridiidae), over one year. *Journal of Arachnology*, 39: 154-160.
- Reed, C., Newland, S.(2002) Spiders associated with table grapes from the United States of America (State of California), Australia, Mexico and Chile. New Zealand Ministry of Agriculture and Forestry Report, Wellington, New Zealand, pp. 1–90.
- World Spider Catalog (2015). World Spider Catalog. Natural History Museum Bern, online at <http://wsc.nmbe.ch>, version 16, accessed on 22.April.2015.